

第4回運営推進会議

令和3年7月29日

グループホーム軽井沢

□議題□

- ・ 近状活動報告
- ・ 介護ケア事例研究について
- ・ 質疑応答

入居ご家族 様	欠席
地域住民 様	欠席
松山市介護保険課 様	欠席
地域包括西 様	欠席
松山市社会福祉協議会 様	欠席
民生委員 様	欠席
グループホーム軽井沢職員	出席

コロナ対策の為、文書開催とする。

1 入居(所)者の状況(7月 20 日)										(男性 3 人、女性 14 人)				
	内 訳	要支援2	0人	要介護1	3人	要介護2	0人	要介護3	6人	要介護4	3人	要介護5	5人	
	6月	入居(所)	0 人	(特記事項)										
		退居(所)	1 人											
	7月	入居(所)	0 人											
		退居(所)	0 人											
2 主な活動、出来事														
	6 月 6 日	土砂災害訓練行う												
	6 月 11 日	介護保険課へ5月開催の運営推進会議報告書提出する。												
	6 月 26 日	各ユニットでユニット会議行う。(利用者のケア・ケアプランカンファレンス・業務連絡)												
	6 月 22 日	6月の誕生日会行う												
	6 月 28 日	両ユニット合同でどら焼き作りレク行う												
	7 月 7 日	両ユニット合同で七夕レク行う												
	7 月 14 日	7月の誕生日会行う												
	7 月 19 日	第3回身体拘束適正化委員会・職員自己評価(中間)行う												
	月 日													
3 次期の主な活動予定														
	8 月 日	資質向上のための研修(感染症研修)												
	9 月 日	敬老会												
	月 日													
	月 日													
	月 日													
4 特記事項、その他														
	①													
	②													
	③													
	④													

介護ケア事例研究

1. 基本情報

利用者名	K氏	年齢	80歳代	性別	女	要介護度	3
認知症高齢者の日常生活自立度				障害高齢者の日常生活自立度			

2. ADLの状況

指示理解、意思表示できず。家族の顔も認識できず、名前を呼べば返事はするが、声掛けへの内容は理解はできていない様子。歩行は不安定で手引きが必要。

3. 本人の課題

- ・歩行が不安定（左へ傾く、ふらつきがある、脚の筋力低下）
- ・発語が少なくコミュニケーションがとりづらい

4. ケアプラン

長期目標

自立歩行が安定する、他者との関わりが増える

短期目標

安全に歩行ができる、発語が増える

ケア内容

- ・施設内での歩行訓練
手引きにて施設内を歩行したり、介助バーを持って足上げの動作を行う
- ・レクへの参加で、身体を動かし、上肢下肢の筋力をアップが望めるように支援する
- ・発語を促すため、声掛けを行う
トイレ誘導、歯磨きなどの生活動作全般の声掛けをきっかけに発語を促す
- ・他者との関わりで、刺激を受けて発語を促せるように支援する

介護ケア事例研究

5. 実施内容

〈かかわり〉 ・時間を決めて、歩行訓練を行った。施設内を、職員と一緒に歩行した。歩行をしている時に、話しかけたりしながら、発語を促すことも行った。 ・「トイレに行きます」「お風呂にいくよ」「歯磨きするよ」など移動、起床、排泄、食事など生活動作全般の声掛けをきっかけに発語を促した。 ・くつろいでおられる時間に、雑誌を見ながら、言葉掛けや発語を促すように関わりを持った。「これは〇〇です」と伝えた。 ・体を使った、レクに参加を促した。	〈本人の様子〉 ・「歯磨きしましょう」「立つよ」「トイレに行きましょう」などの声掛けに、オウム返しのように「トイレ？」「ここ？」「歯磨き？」などの発語が見られた。 ・時間を決めて歩行訓練を行った際には、隣のユニットの利用者様や、職員から「こんにちは」と言われると「こんにちは」と挨拶ができるようになった。また下肢筋力アップのために歩行を初めてからは、左への傾きが少し改善された。両手で手引き誘導だったが、本人様の体調が良いときには、手をつないで歩行することができた。ただし事例研究後半は、支援が疎かになってしまったことがあり歩行訓練を行う機会が少なくなってしまった。そのため左への傾きが出てきている。 ・くつろいでおられる時間に、聞き取りにくいことが多いが自発的に発語されることがあった。 ・レク(風船バレー)に参加する際には、何のことかわからない様子で、「ふふふ」と笑っておられるだけでした。最初は風船が目の前に来ても、手を伸ばしたりしせず、ずっと両頬に手を当てて微動だにしないだったが、徐々に肘で反応し、最終的には、手を伸ばし風船を相手へ返されることも見られた。
---	--

6. 考察

・今回のケア事例研究において、日々本人様が行っている、生活支援全般に沿っての言葉掛けは、発語を促すことに有効だと感じた。 ・歩行訓練に関しては、毎日歩行訓練を継続することで改善が見込めると感じた。事例研究後半には、歩行訓練の支援が疎かになってしまったことがあり、左への傾きが出てきていることが、反省点だと感じている。 今後も声掛けやレクへの参加、他者との関わりを持つことで刺激を受け、発語へ繋げたい。またご家族の希望でもある、歩行の安定を図り、ADLの維持を目的とした歩行訓練も継続していきたいと思う。
--

介護ケア事例研究

1. 基本情報

利用者名	T氏	年齢	50歳代	性別	男	要介護度	1
認知症高齢者の日常生活自立度				障害高齢者の日常生活自立度			

2. 本人の状況

日常生活は自立。一日の流れを理解している。身の回りのことも自分で行える。どちらかと言えば静かでおとなしいが、こだわっている物事への執着心は異常に強くプライドは高い。健康体であるがアトピーの皮膚疾患がある。現在も手指の の改善がみられないままである。

3. 本人のニーズ・課題

- 1.手指の が治り、きれいな状態が維持できていく。
- 2.1の為に、本人が私の現在の状態を受け入れることができる。
- 3.1の為に、本人が自ら完治に向けて取り組むことができる。
- 4.1の為に、こちらの話しやアドバイスを聴く事ができる。

4. ケアプラン

長期目標

周りの人の意見やアドバイスを聴き入れ、状況に合わせて生活が送れる。

短期目標

手指の の改善に向けて、日々薬をきちんと塗っていける

ケア内容

- 1.職員によって の確認、チェックを行う。
- 2.手指軟膏本人持ちのため、塗ったかどうかの確認の声掛けしていく。(手洗い、入浴後の塗布促すが本人が「手を洗うので塗っても同じ」等と言われる。・居室への訪室を嫌われるため、1対1で納得できる場面作りが難しい。・職員が塗布することも嫌われている。)
- 3.日々の、服薬時間に合わせて軟膏の塗布を行っていく。

介護ケア事例研究

5. 実施内容

〈かかわり〉	〈本人の様子〉

6. 考察

--